

内館牧子の

艶えん

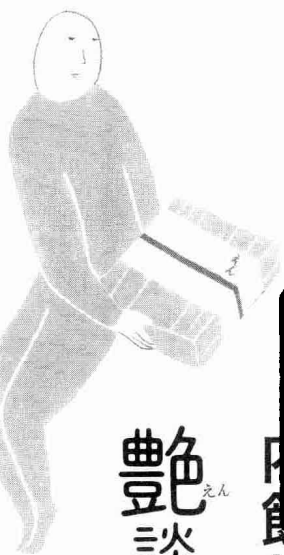
談・

縁エン

談・

怨en
談





江苏工业学院图书馆
藏书章

内館牧子の

艶談・縁談・怨談^{えん}
^{エシ}

内館 牧子 (うちだて・まきこ)

1948年秋田県生まれ。武蔵野美術大学デザイン科卒業後、三菱重工業に入社。13年半のOL生活を経て、88年に脚本家デビュー。テレビドラマの脚本に「ひらり」「毛利元就」「私の青空」「週末婚」「昔の男」「白虎隊」など多数。93年第1回橋田賞、95年日本作詩大賞を受賞。大の好角家としても知られ、2000年女性初の横綱審議委員会審議委員に就任。06年東北大学大学院修士課程を修了。その後も同大学相撲部監督を務めている。著書に『義務と演技』『夢を叶える夢を見た』『なぜ女は土俵にあげられないのか』『養老院より大学院』『エイジハラスメント』、対談集『おしゃれに。男』『おしゃれに。女』(小社刊)など多数。

内館牧子の 艶談・縁談・怨談

2009年1月5日 初版発行

著 者 内館 牧子
発 行 者 西原 賢 太 郎
発 行 所 株式会社 潮 出 版 社
〒102-8110 東京都千代田区飯田橋 3-1-3
電話／03-3230-0781 (編集)
03-3230-0741 (営業)
振替口座／00150-5-61090
印刷・製本 共同印刷株式会社

Copyright © 2009 by Makiko Uchida
ISBN978-4-267-01804-6 C0095 printed in Japan
<http://www.usio.co.jp>

JASRAC 出 0814972-801

落丁・乱丁本は小社営業部宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社に許諾を求めてください。

内館牧子の
艶談・縁談・怨談

目次

第1話	縁	年賀状に初孫を印刷……………	9
第2話	宴	クラスメイトの話題は「老後」……………	17
第3話	演	女の演技を見抜く法……………	25
第4話	怨	理不尽なもの、それは人事……………	33
第5話	煙	喫煙者受難の時代……………	41
第6話	厭	「厭世」は明日のモチベーション……………	49
第7話	遠	田舎暮らしと都会暮らし……………	57
第8話	円	ケチは世間を狭くする……………	65
第9話	淵	「崖っ淵で戦う男」の色気……………	73

第10話

塩

冠婚葬祭にクールビズの愚

81

第11話

筵

白虎隊と現代日本人

89

第12話

鳶

決して昔話をしない鳶頭

97

第13話

宛

メール社会に手紙の価値

105

第14話

鉛

故郷の空は嫌い

113

第15話

燕

度量が小さい人間の魅力

121

第16話

艶

自然体の野暮

129

第17話

苑

死者の霊はどこに宿る?

137

第18話

員

いじめられっ子の豹変

145

第19話	蠅	歳時記こそ心を癒す……	153
第20話	延	プロレスの神様はこう死んだ……	161
第21話	羨	ダイエットの限界……	169
第22話	垣	土俵の女人禁制……	177
第23話	咽	組織人の悲しみ……	185
第24話	媛	才女がうつむく時……	193
第25話	園	無趣味のお父さんに救い……	201
第26話	圧	選ばれし勇者……	209
第27話	俺	自慢話を聞く地獄……	217

第28話

冤

犯人扱いされたOL

.....
225

第29話

猿

ゴリラの赤ちゃんは泣かない

.....
233

第30話

鴛

「家族の絆」は難しい

.....
241

あとがき

.....
249

装丁

松岡史恵

装画

村田善子

内館牧子の
艶談・縁談・怨談

第1話

縁

えん

年賀状に初孫を印刷

孫を見せたい男の心理

誰しも最も深い「縁」は家族であろう。もっとも、某テレビ局のプロデューサーは、私に言ったことがある。

「家に帰ると、もう何十年も毎日毎日、同じ女が家に居ついているんだよな。いや、女房だからそれでいいんだけど、俺、ふと思うことがあるんだよ。何でこの女、ずっと居るんだろう。不思議だなんて」

それは女の側だって同じだろう。たぶん、ふと思うに違いない。

「何で同じ男が、何十年も毎日毎日帰って来るのかしら」

結婚にご縁のなかった私にはわからないが、アカの他人が何十年も一緒にいるというだけで、大変な縁ということだ。その上、子供が生まれ孫が生まれ、幸せが広がる。

しかし問題は、幸せであればこそ黙っていられないということである。誰かに言いたい。可愛い子供や孫の写真を見せたい。その気持ちとはとても自然だと思うが、今年の正月にはさすがに考えさせられた。年賀状がもう、「孫」「孫」「孫」なのがある。

私は団塊の世代であり、すでに何人もの孫を持つ人もいるが、ここに来て初孫が生まれたり、近く生まれる人が多く、

「春には僕もジイさんです」

「夏には孫娘が生まれ、今ではお祖父ちゃんにべったりです」
などと、ペンで添え書きしてある。

これはまだいい。何と、孫のことを印刷してある年賀状が多いのだ。これは、いささか驚いた。

「謹賀新年 本年は初孫を抱いて新年を迎え、気が充実しています」
とか印刷され、

「頌春 初孫を膝にし、その澄んだ瞳を見ると、世界の平和を願わずにはいられません」
とか印刷されている。

印刷してあるということは、おそらくこの年賀状をすべての人に出しているのだろう。行間からにじむ「孫の可愛さ」を考えると、仕事関係者には別バージョンを出しているとは思えない。もうやみくもにこの幸せを伝えたいのだ。どうもそんな気がする。

いや、この賀状でも別に悪くはない。「氣力充実」や「世界平和」を謳^{うた}っているわけだし……。だが、これを会社の上司や、取引先やスポンサーにばらまくセンスは、やはり私には理解できない。「内館さんは孫に縁がないから、ひがんでるんだ」

の一言で完結させられそうだが、幾ら定年間近の団塊世代でも、好々爺こうこうやの雰囲気を感じて、ビジネス関係者に伝える必要はあるまい。

そう思っていた時、女友達から電話がかかってきた。

「うちのバカ亭主、孫の年賀状を送ったでしょ。もう最悪」

彼女の夫から届いた年賀状には、赤子のカラー写真が印刷しており、その横に「八月に待望の孫が生まれました」と、これも印刷文。さらには赤子の口にマンガの吹き出しがあって、

「ボク、××君です。よろしく」

と印刷されていた。むろん、××のところは実名だ。

彼の妻は電話で嘆いた。

「まさか、あんな年賀状をみんなに出しているとは思わなくて、大喧嘩よ。会社の社長にも出したっていうんだから。私が『孫なんて、他人は全然可愛いと思わないのよッ』って怒っても、全然わからないのよ」

そして、声をひそめて言った。

「ねえ、男って五十代半ば過ぎると、一気にボケるよ。間違いない。うちの亭主を見ているとわかるの。あなたも知っての通り、孫の写真に『××君でーす』なんて印刷する男じゃなかったでしょ」

その通りだ。シャープでドラスティックなキレ者で、なのにバランス感覚と包容力のあるエリートビジネスマンだった。私は電話口の妻に、とりつくろうように言った。

「それほどまでに、孫の誕生が嬉しかったってことなのよ」

妻はピシャッと答えた。

「違う。うちの亭主、孫を見ては泣いてるのよ。幾ら可愛くたって、思考回路がゆるんできた証拠。五十代半ば過ぎると、男はボケに入るの」

せっかく、私がとりつくろっているのに、恐ろしいまでの断言だ。

確かに、孫について書かれた年賀状は、ビジネスマンからよりビジネスマンからの方が圧倒的に多かった。